



RAISON D'ÊTRE



RAISON D'ÊTRE

Nirvana Consultant KK

Raison D'être Project

Takayasu Hará  
CEO & FOUNDER

ニルバーナ・コンサルタント株式会社  
代表取締役  
企画者 原 貴悌

Local Economic Strategic Plan

## 地方版総合戦略推進事業提案

### 第2章：ここで言う村とは

斜陽産業となりつつある和の匠の技、エンターテインメント産業映画産業、林業、宿泊産業がコラボして、ブロックチェーンなどの最新IT技術を生かして作り上げる地球と人間の新しい関わり方を提唱する持続可能な町の構想。

レゾンデートルは、Nirvana Consultant が主催する音楽家と慈善団体やNPOがコラボして作る新しい「社会問題に敏感な」多国籍コミュニティです。ユーチューブを使った音楽活動をしているミュージシャンと慈善団体が同時クラウドファンディングして様々な社会的問題に焦点をあて問題認知と解決を実施したり、新しい町を作ったり様々な社会事業を積極的におこなっております。また、ライブ・イベントをやったり、チャリティ・ガラ・パーティーを開催。様々な社会貢献をしております。

Since 2014, Nirvana Consultant KK offers various event management consulting for many NPO in and around Tokyo Japan. Raison d'être is the unique social project under Nirvana which enables indies and major artists and non profit organizations to collaborate together with a crowdfund raising app. If you are interested in please visit us at [www.raisondetre.tokyo](http://www.raisondetre.tokyo) for more information.



静岡県 の 地域 振興 の 課題 を 紐 解 く

# これからの「個」と「公共」のあり方を問う

欧米の公共のコンセプト

## 個人主義が前提にある 共同体が基盤の公共性

公共の空間を管轄する行政が、公共意識の高い個人発信の公共のアイデアなどを、柔軟に拾って、市民の交流機会の提供、コミュニティ醸成、健康、社会問題の抑止等々に協業、「行政」と「個人」が成熟した関係構築がなされており、結果、住まう人たち各々の個人の「人生」「生き方」「あり方」が引き立つような街の演出に対する官民一体の工夫が、公共施設にとどまらず街の至る所で活かされており、街に関わる個人が自然に幸福度が増すように意図的に都市がデザインされている。

一般的に：

- 提供する側も利用する側も、はるかに軽やかで自由度が高い。
- 個人と行政の成熟した関係が築かれている
- 個人発信の公共は、利用者同士の交流度が全体主義の公共インフラと比べて高い
- まちづくりのコンセプトは、公共施設や企業誘致に限らず、統括的な個人市民の幸福度をあげるブランディングが基盤になっている。

日本の公共のコンセプト

## 全体の利益を優先する 全体主義

与えられるモノやサービスは「みんなのもの」つまり、公共であり、全体が公平に益することができる全体主義に基づいてきた我が国日本のこれまでの公共のあり方は、個性や面白みに欠け、全体に響かない傾向が強い。公共は、本来、楽しめるクオリティでなければ意味がなく、全体の規制やルールに縛られた日本の公共のあり方は、発展の余地があると考えられる。

一般的に：

- 提供側、利用者側の区別なく、規制や禁止事項が多い。
- 個人と行政との関係が極めて希薄。
- 個人発信の公共の概念はない。
- まちづくりに、コンセプトはなく、公共インフラや商業施設の建設が主。結果、本来面白みのある商店街の収益を逼迫する例が散見される。



RAISON D'ÊTRE

幸福度と公共とまちの関係

## 国別幸福度ランキング

毎年恒例の「世界幸福度調査」（米国の世論調査会社ギャラップ・インターナショナルとWINによる共同調査）参照

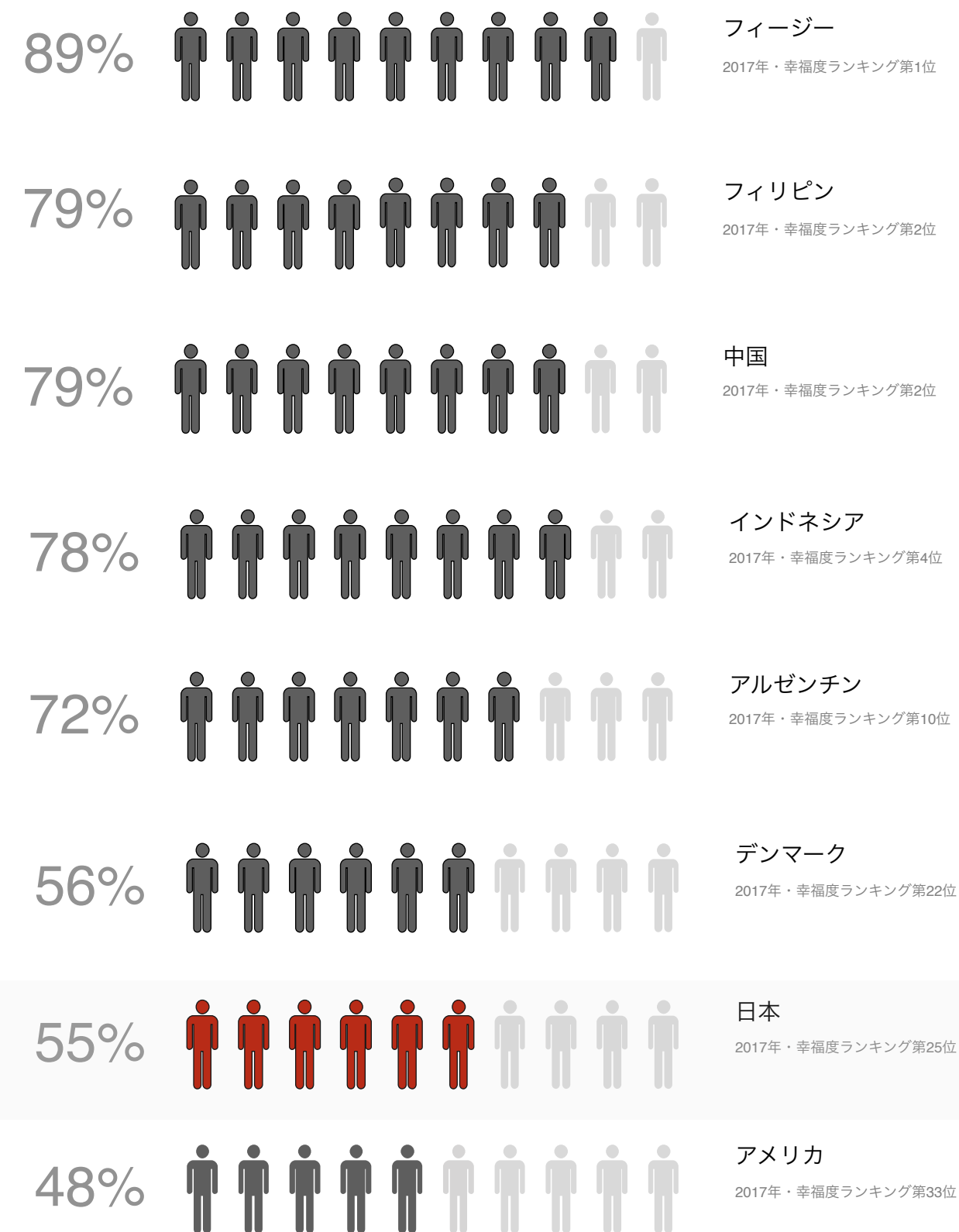
精神的幸福と物質的満足感

### 「幸せ」の定義と数値化

右のグラフの数字は純粋幸福度は単純に幸福を感じている人の比率です。調査対象国は66カ国で、純粋幸福度の平均値は59ポイント。今回の調査で唯一80ポイント以上を獲得した「フィジー」（89ポイント）は、昨年の順位が2位、一昨年も1位。

経済的に、成熟した先進国は、日本やアメリカを含め皆20位以下となっており、改めて物質的な幸福感、満足感は、我々を必ずしも満たしてくれるとは、限らないということがデータから見て取れます。中国に関しては、調査が都市部に限られるため、信憑性が疑われますが、フィジーやインドネシア、北欧などは、高い幸福感を感じる人たちが他国に比べて多く存在します。

幸福度の定義は、ここで紹介するギャラップ・インターナショナルの米の世論調査の他、一人当たりのGDP、社会サービスの充実、人生の選択自由度、社会的寛容性などの幸福度に関連するであろう項目から、10段階で試算する国連のHappiness Reportなどありますが（日本、2019年現在で58位）いずれの場合においても、最近では、日本の幸福度指数が減少しています。





幸福度と公共とまちの関係

# まちづくりと幸福度

まちや建物のデザインと幸福度の関係の模索

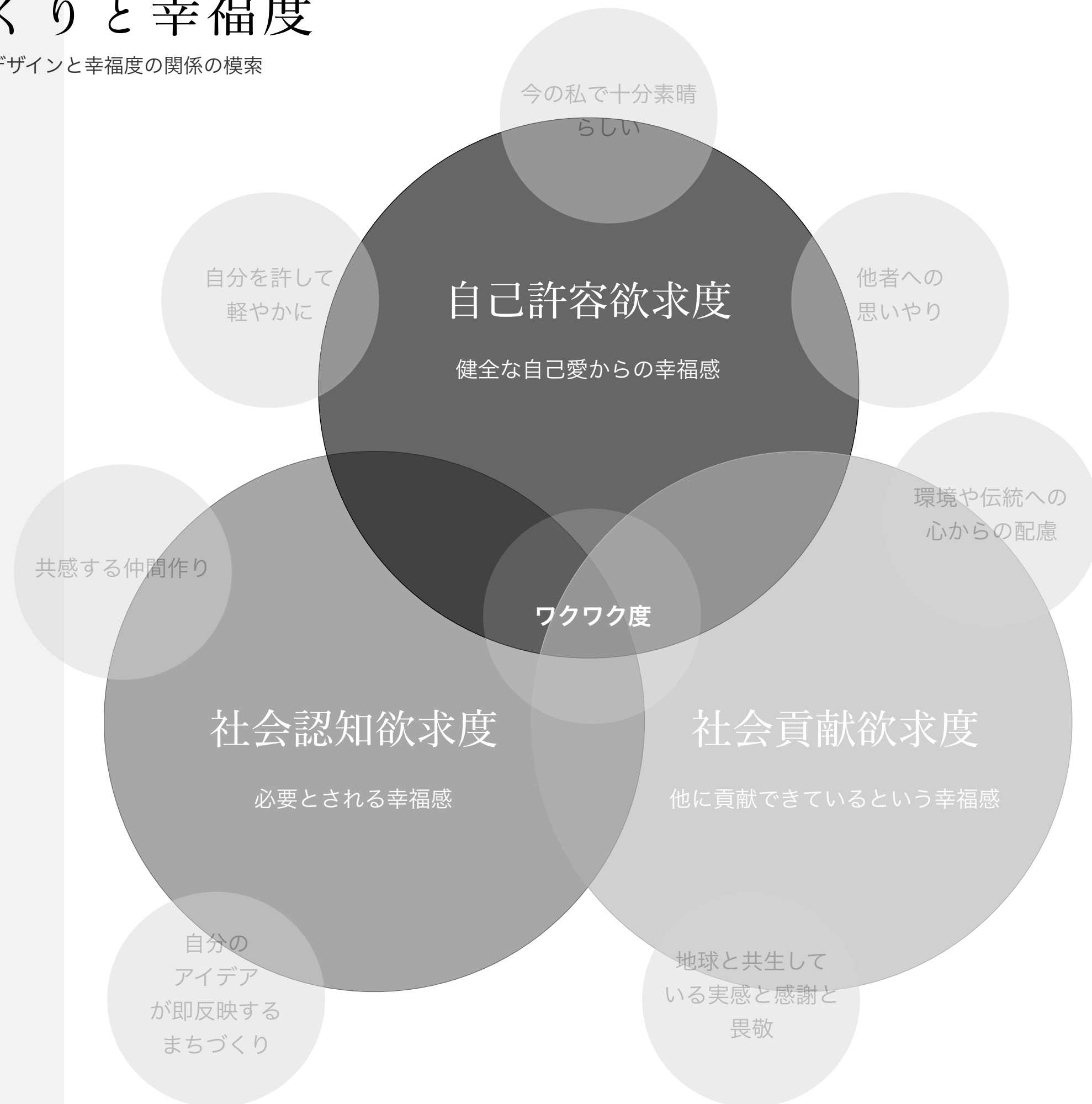
精神的幸福度の3つの要素

- 「自己許容」
- 「必要とされている」
- 「貢献できている」

我が国日本において、比較的に他国と比べ一人当たりのGDPが高いにも関わらず、主観的に感じられる幸福度が低いのではないかという議論が起こってから久しいのですが、現在内閣府の幸福度に関する研究会において、主観的幸福感を三つの領域（経済社会状況、心身の健康、（他者との）関係性）に分け、調査を初めています。

当該事業においては、日本を取り巻く経済社会状況と国民一人一人の心身の健康状態以外で、主観的な幸福度に影響する第3の領域（他者との関係性）に着目、まち作りや地域デザインが、どのようにコミュニティに属する個人の幸福度に影響するか、数値化を試みます。

他との関係性においては、当該事業にてさらに3つに細分化して、プロジェクトチーム、行政、顧客の各々の幸福度が満たされ”ワクワク”するようプロジェクトをデザインして、まち作りに活かしていきます。







自然と人間が共生する新しいエコビレッジ

## プロジェクトチームの 村の景観と建築デザイン への熱い思い

竹を使う世界に類を見ない美しい日本の新しい建築様式の村を作る

地上170cmの視界とまちの景観

### 人の視線の高さから見える視界＝街の景観。

この事業の起案者である私が10年近く住み慣れたフィラデルフィア。リッテンハウススクエア（右写真）という公園の脇に住んでいたのですが、そこには、地上170cm、つまり、人の視界から見える景色の中に様々な工夫が凝らしてあり、歩くだけで人が幸せに感じる瞬間が沢山あります。歩道にせり出したカフェラウンジや公園のベンチなど、街ゆく人たちの関わり合いが助長されるよう至る所に工夫がなされています。

一方、東京の日比谷公園（上写真）の周辺では、箱物としては立派なビルやホテル、劇場が立ち並んでいますが、公園内も閑散として、どこか賑わいかけ、緊張感さえ感じる冷たい空気が周囲を覆っています。地方、都会に限らず現代の日本の街の殺風景は、街ゆく人の視線がどこにあるか、あまり意識が向いていない点が挙げられます。

当該プロジェクトにおいては、以上のことから、人の高さから見える村の景観を意識して村をデザイン、集まる人たちが互いに声を掛け合い、談笑したり、お茶を飲んだりできる空間の演出に心がけます。





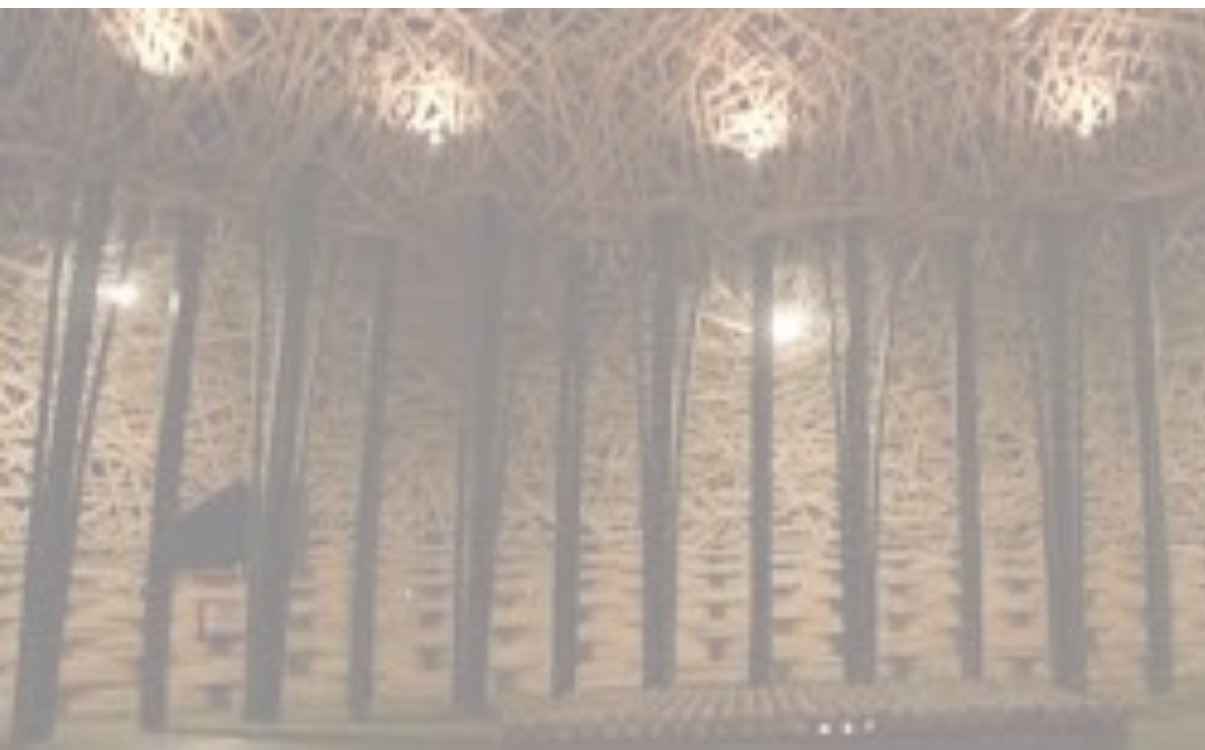


RAISON D'ÊTRE

自然と人間が共生する新しいエコビレッジ

# プロジェクトチームの 村の景観と建築デザイン への熱い思い

竹を使う世界に類を見ない美しい日本の新しい建築様式の村を作る



## 唯一無二の竹を使った和の現代建築に挑戦 日本人に馴染みの深い竹を建築資材として使う。

日本やアジア諸国に古来より原生している竹。その竹で組まれたアジアの建築様式などが世界で今脚光を浴びています。そこで、竹を繊細に加工する日本の伝統工芸技術とそのアートをモチーフに建築に応用できないか、ZARAやCalvin Klein, Levisなどの商業施設を多く手がけてきたKey Operation KKの代表取締役小山氏と議論をこれまで重ね、日本の建築基準法に準拠しつつ、燃えにくく、虫のつかない竹の利用方法を模索、更に、建築資材としての竹の利用に関して詳しい建築家たちを集めプロジェクトチームを結成しました。

現在、宿泊施設と野外ライブステージ、そして住宅の模型作成に着手し、建設候補予定地を現在検討しております。

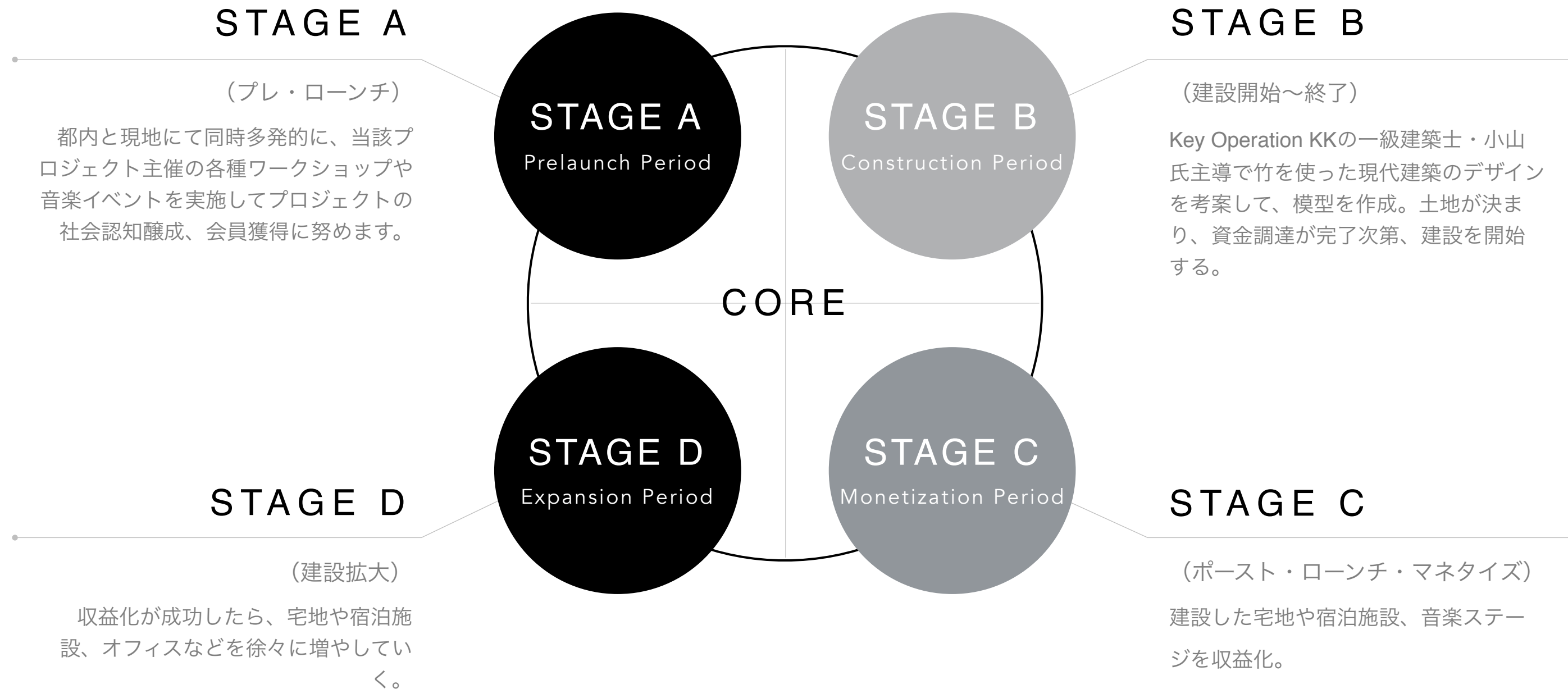




自然と人間が共生する新しいエコビレッジ

# 駿河クリエイティブ・ビレッジ構想

最初の数棟の建設が完了するタイミングでプロジェクトをプレローンチとポストローンチという二つの期間に分け  
様々な施策を実施します。





RAISON D'ÊTRE



RAISON D'ÊTRE

Nirvana Consultant KK  
Raison D'être Project

Takayasu Hará  
CEO & FOUNDER

ニルバーナ・コンサルタント株式会社  
代表取締役  
企画者 原 貴悌

Local Economic Strategic Plan

# Key Operation KK Project

レゾンデートルは、Nirvana Consultant が主催する音楽家と慈善団体やNPOがコラボして作る新しい「社会問題に敏感な」多国籍コミュニティです。ユーチューブを使った音楽活動をしているミュージシャンと慈善団体が同時クラウドファンディングして様々な社会的問題に焦点をあて問題認知と解決を実施したり、新しい町を作ったり様々な社会事業を積極的におこなっております。また、ライブ・イベントをやったり、チャリティ・ガラ・パーティーを開催。様々な社会貢献をしております。

Since 2014, Nirvana Consultant KK offers various event management consulting for many NPO in and around Tokyo Japan. Raison d'être is the unique social project under Nirvana which enables indies and major artists and non profit organizations to collaborate together with a crowdfund raising app. If you are interested in please visit us at [www.raisondetre.tokyo](http://www.raisondetre.tokyo) for more information.





RAISON D'ÊTRE

Project Case

# Calvin Klein 原宿店

Commercial | 2017.07

Harajuku Tokyo







RAISON D'ÊTRE



Project Case

# ZARA 吉祥寺

Commercial | Renovation | 2017.11

Location | Musashino City Tokyo







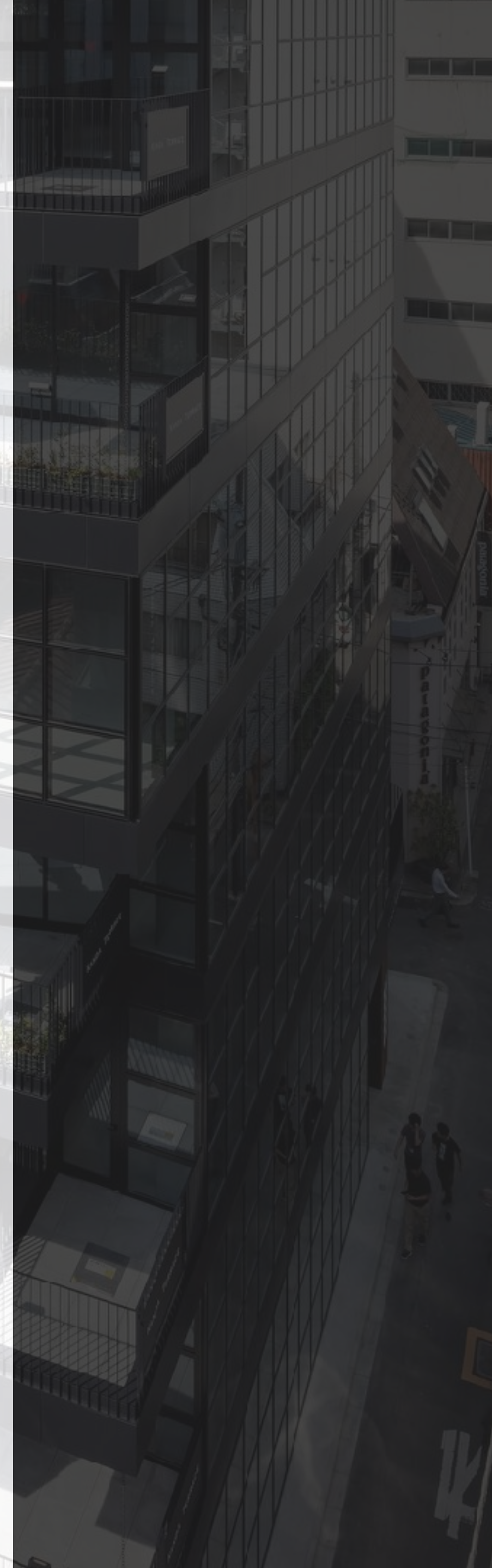
RAISON D'ÊTRE

Project Case

# 神田テラス

Commercial | 2017.11

Chiyoda Ku Tokyo







現代建築家・隈研吾

## 日本の木材建築の事例

木材をふんだんに使った新国立競技場のデザインや根津美術館のデザインを手がけた世界的に著名な隈健吾氏の木材現代建築の創造美の紹介。



木材の直線的な  
美を活かした事例







Bali Ibuki KK

## 海外の木材建築の事例

現在、グローバルに脚光をあびるバリのグリーンビレッジ・プロジェクト。伝統的な竹建築の技と現代建築の技術を用いて大型宿泊施設を建設。



木材の自然な曲線美を  
活かした事例

